

視覚障がいを理解するために

(1) 鳥取盲学校PTA100周年記念 子育てエッセイ

「見えない・見えにくい子どもの子育て奮闘記」～思い出ぼろぼろ～

鳥取県立鳥取盲学校PTA発行より

音楽が好き

小さいときは、不安のためか、常に誰かが側にいて相手をしてやらなければ、ぐずって泣いてしまう子どもでした。兄弟が、楽しそうに遊んでいる中にも入れませんでした。親がいつも相手をしてやることもできず、もどかしさと辛い気持ちで一杯でした。

そんな時、私はよく歌を歌いました。童謡、歌謡曲、演歌、民謡・・・ジャンルは問いません。目の前で泣いているのに、手が離せないとき、隣の部屋にいるとき、子どもの耳に届くよう、大きな声で歌いました。あなたの側にいるよ、大丈夫だよ、見守っているよ、という気持ちを込めて。

そのうち、子どもの好きな歌やフレーズが出てくると、待ちに待った笑顔です。一緒に歌いながら、私の気持ちもだんだん穏やかになっていくのがわかりました。

今も子どもは歌が大好きで、昭和の懐メロから最新の曲までよく歌っています。「○○ちゃんの歌を聞くと楽しいよ。元気になるよ」とまわりの方も言ってくれます。他でもなく、家族が一番励まされているのです。

これから先、親がいつも側にいてやることはできません。しかし、歌を歌っているときのよう、心豊かに、苦しいときを乗り越えられるようなたくましさを、子どもが身につけてほしいと願わずにはいられません。

* このエッセイに綴られた保護者の思いを読み取ってみましょう。また、障がいのある子どもを育てる親の苦労や将来どんな力をつけていこうとしているのか考えていただくと幸いです。

（２）盲学校卒業生の作品

イエローライン

突然どしゃぶりの雨　　視界を失い　　立ち止まる
雨宿り先も見つからないまま　　ただ立ち尽くすだけ
どこへ向いている
この先に何がある
誰にも行き先がわからない

どしゃぶりの雨音　　声はかき消され
気づかない私
そこには誰かいるの
この声　　届くよう
一步一步　　歩き出す
真っ直ぐに延びるイエローライン　　外れないように

やがて雨はやみ　　陽射しとそよ風感じる
ふと気づくと優しい手
冷たくなった私をあたためた
同じ時を過ごし
一緒に笑ってられる
時にはいいよね　　イエローライン外れても

止まることを知らない夢のような時間
笑顔の日々もタイムリミット
優しい手は冷たくなり　　どこかへ消えて行った
あたためてあげられなくて　　ごめんね
どこかでまた巡り会える
その日がくると信じて　　イエローラインの旅に出よう

* この作品のタイトルの「イエローライン」とは、点字ブロックのことです。
この作品を作った生徒はどんな人なのでしょう。そして、この作品にはどんな思
いが込められ、どんなことを読者に伝えようとしているのでしょうか。

作品を繰り返し読み味わっていただけると幸いです。

(3) 卒業生の力強いメッセージ



卒業生の言葉



『 つながり大切に して 』

『 異なる人が集まり、共通の目標に向けて協力する。 』

『 一人で帰れるように なった時、うれしかった。 』

『 人生が 少しずつ 開けてきている。 』

『 一つのこと に 必死で取り組むこと
みんなで協力して 一つのものを 作り上げること、
目が見えなくても できることは たくさんあること、
生き方の土台となるものを 学びました。 』

『 個性や明るさは、障がいや苦難ぐらいでは 損なわれない。 』

『 決意し、行動を起こす。 』

『 五年生の時に 見えなくなりました。 とても大変でした。
今では 歩けるようになりました。 』

『 何か 新しいことに チャレンジする 勇気 』

『 ぼくは がんばってます！ 』

『 きっかけは 鳥取盲学校のパンフレット 』



* 卒業生の短い言葉ですが、それぞれに強いメッセージが込められています。
盲学校卒業を迎え、振り返った思い出や気持ちを読み取ってください。